

緑のトラスト保全 第2号地 狭山丘陵・雑魚入樹林地

# 植物ハンドブック



## 「緑のトラスト保全 第2号地 狭山丘陵・雑魚入樹林地」について

「緑のトラスト保全地」は、埼玉の優れた自然や貴重な歴史的環境を次世代に残すため、県民や企業・団体等からの寄附金を主な原資として、埼玉県と市町村が土地を取得し、保全を図っているもので、現在、県内に14か所あります。

この場所は、1994年に、埼玉県が2か所目の保全地として3.4haの土地を取得し、通称「トラスト2号地」と呼ばれています。

狭山丘陵の北東部に位置し、市街地に近接しながらも、コナラ、クヌギなどからなる雑木林、湧水による湿地、竹林、茶畑等の異なる環境が隣接しあい、多様な動植物が生息しています。

これまで、私たち「公益財団法人さいたま緑のトラスト協会」のボランティアスタッフが保全管理活動を行い、貴重な里山の自然を守ってきました。

この度、取得から30年を迎えたことから保全地内の“植物調査”を行い、その結果を「植物ハンドブック」として取りまとめました。

散策の際に ご活用いただければ幸いです。

2025年10月

トラスト2号地 ボランティアスタッフ一同

## 目次

散策用地図・散策にあたって	3
専門用語の説明・植物の部位名称の説明図	4
植物紹介「春」	6
「夏」	16
「秋」	27
「冬」	33
絶滅危惧種・外来種	35
植物リスト	36
自然環境の状況	38
保全活動ボランティア募集等のご案内	39
案内図	40

# 散策用地図



## ◆ 散策にあたって ◆

自然豊かなこの環境を次世代に伝えるため、ご協力ください！

- 花は育った場所で美しく咲きます。持ち帰らないでください。
- ゴミを捨てないでください。外から何も持ち込まないでください。
- 散策路以外には立ち入らないでください。
- タバコ、焚火等は山火事の恐れがあります。

火気は絶対に使用しないでください。

\* この冊子では、「トラスト2号地」に生育している主な植物を、大まかな四季ごとに紹介しています。なお、説明文、写真、地図、イラスト等は、すべてボランティアスタッフの手作りです。



# 専門用語の説明・植物の部位名称の説明図

「植物紹介」ページ（P6～34）で使っている用語について説明します。

## 【全般】

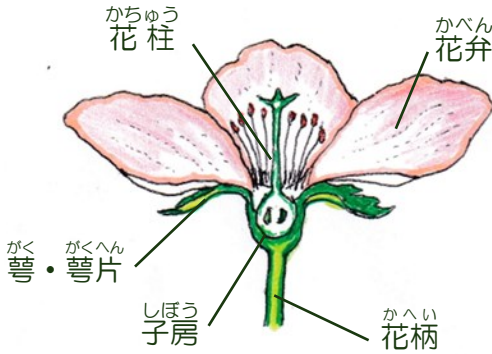
一年草 … 種子から発芽して、満1年以内に花を咲かせて枯れる植物

二年草 … 種子から発芽して、2年目に花を咲かせて枯れる植物

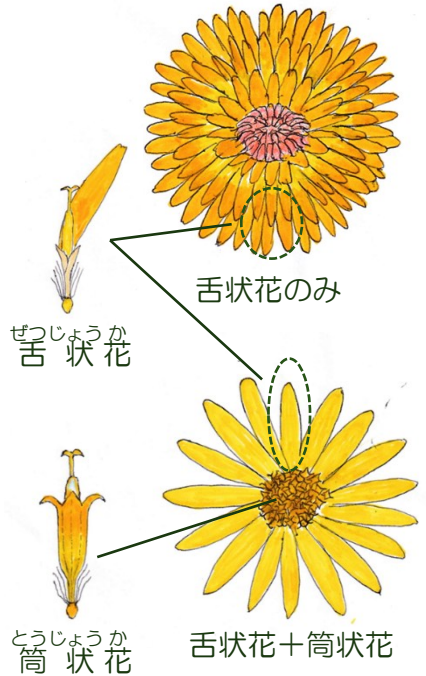
多年草 … 種子から成長し、開花して実ができたあとも地下部は枯れず、  
同じ株から複数年 花を咲かせる植物

雌雄異株（しゆういしゆ）… 雄花と雌花が、それぞれ別の個体につく植物

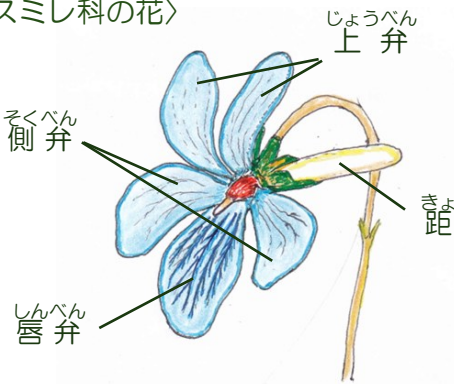
## 【花】



### 〈キク科の花〉



### 〈スミシ科の花〉



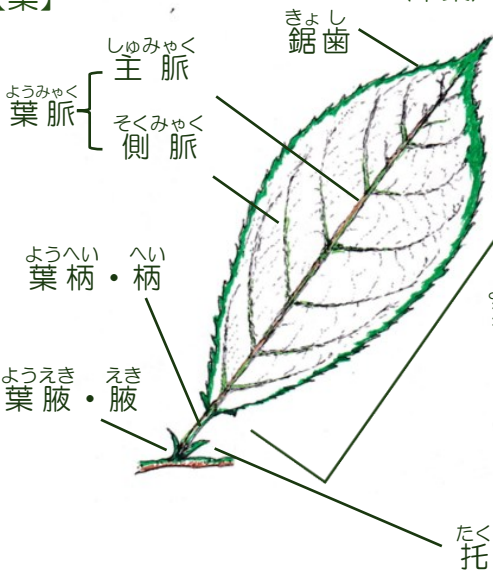
両性花 … 雌しべと雄しべの両方がある花

装飾花 … 雄しべと雌しべが退化し、花弁や萼などが発達した花  
昆虫を呼び効果がある

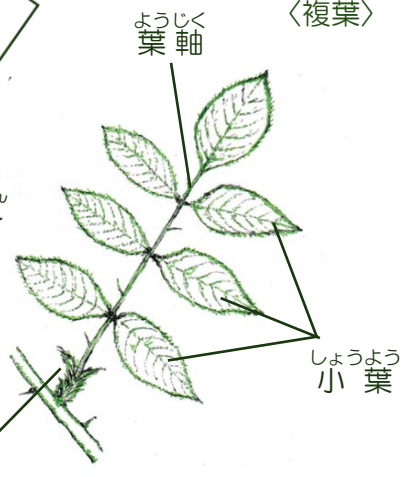
花序 … 茎への花のつき方

【葉】

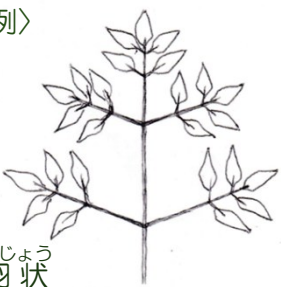
〈単葉〉



〈複葉〉



〈複葉の一例〉



2かいきすうじょう 2回奇数羽状

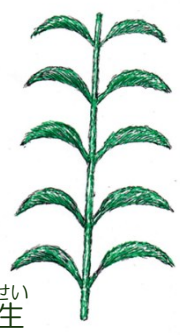


3かい3 しゅつきすうじょう 3回3出奇数羽状

〈葉のつき方〉



ごせい 互生



たいせい 対生



りんせい 輪生

ロゼット状 … タンポポのように、地面に放射線状に葉を広げた状態  
 根生葉 … 地面を這うように根元から出ている葉

## 〈早春の頃〉 里山に春を告げる

今年も 雑木林に春が来ました！  
当地でも 可憐な花々が 咲き始めます



### シュンラン (ラン科/多年草)

花期…3～4月

生育場所…里山や人里に近い雑木林

名前(春蘭)のとおり春の訪れを告げる花で、古くから親しまれている。春先に地味な緑色の花を咲かせ、唇弁には斑点がある。当地の代表的な植物の一つである。



### コスミレ (スミレ科/多年草)

花期…3～4月

生育場所…野や丘陵・山地 人家周辺にも多い

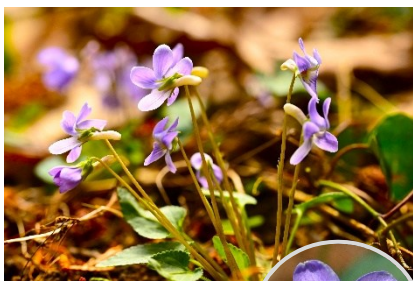
早咲きのスミレの一つ。

コスミレという名前だが、大きさと花の色に変化が多い。

正面から見ると花の奥までよく見える。

茎は地上にあらわれない種類のもの。

葉は卵形で先が尖る。葉裏が紫を帯びるものもある。



托葉

### タチツボスミレ (スミレ科/多年草)

花期…3～5月 生育場所…林縁・山地

当地で最もよく見られるスミレで、ツボ(坪)とは庭のこと。茎は地上に立ち上がり、葉はハート形で毛はなく、花の距は長い。

葉柄の付け根に切れ込んだクシの歯状の托葉が目立つ。

花が咲いた後も夏にかけて、自家受粉により結実する閉鎖花が見られる。



閉鎖花

\*\*\*\*\* スミレの茎のありなし \*\*\*\*\*



地上に茎があるもの

- ・タチツボスミレ
- ・ツボスミレ

地上に茎がないもの

- ・コスミレ
- ・マルバスミレ



マルバスミレ

## キランソウ (シソ科/多年草)

花期…3～5月

生育場所…林縁・草地

粗い鋸歯を持ったへら形の葉がロゼット状に地面に張りつくように広がるためか、別名「ジゴクノカマノフタ」とも呼ばれる。茎の断面はシソ科では四角いものが多いが、キランソウは丸い。

いろいろな薬効があり、薬草として用いられる。



## ヒメカンスゲ (カヤツリグサ科/多年草)

花期…3～6月

生育場所…林の中や林縁

他のスゲ類より早い時期に花が咲く。

葉は固くてつやがある細長い線形。

花茎の節に茶色の鱗片がつく。

葉の間に多くの花茎を立て、小さなブラシに似た涼しげな花をつける。



## ウグイスカグラ (スイカズラ科/落葉低木)

花期…3～4月 果期…5～6月

生育場所…日当たりが良い林の中や山地

薄紅色の花をいち早く咲かせ、当地の雑木林に春を告げる。

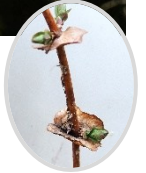
花の形は下向き漏斗形で、先の方が星形に裂ける。対になって咲くことが多い。

咲き終わると初夏にかけて赤い楕円形の実をつける。

日本固有の低木で、冬でも刀のつばに似た托葉が残ることが多い。



托葉



## コブシ (モクレン科/落葉高木)

花期…3～4月 果期…9～10月

生育場所…丘陵や山地のやや湿った場所

早春、葉が展開する前に小枝の先端に白色の花と小さな葉を1個ずつつける。

葉は互生、全縁で波打ち、秋に黄葉する。

果実は、ごつごつとした握り拳(こぶし)のようで、秋に赤色に熟す。

花や葉、枝を折ると芳香がある。

当地では湿地奥の林内で見られる。

## 〈春爛漫の頃〉

### 春の里山を彩る

春本番を迎えた 多彩な花々  
白・黄・黄緑・赤紫・朱色…



#### クサイチゴ (バラ科/落葉小低木)

花期…4～5月 果期…5～6月 生育場所…林縁

木ではあるが草のように丈が低い。  
直径4cmほどの大きな白い花を咲かせ、中央に多くの雄しべと雌しべが目立つ。  
葉や茎は毛が多く、細いとげがまばらに生える。  
オレンジ～赤色の実もまた大ぶりである。

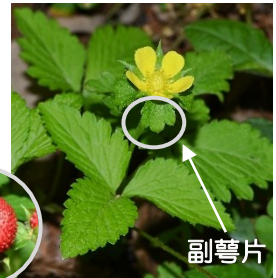
#### ヘビイチゴ



#### ヘビイチゴ・ヤブヘビイチゴ (バラ科/多年草)

花期…4～6月 果期…5月～ 生育場所…草原・あぜ  
どちらも黄色の花をつけるが、ヤブヘビイチゴのほうが大きく、副萼片も目立つ。

ヘビイチゴの葉が黄緑色で先が丸いのに対し、ヤブヘビイチゴは濃緑色で先が尖っている。  
実の表面の赤い粒は、ヘビイチゴは小さく光沢がないのに対し、ヤブヘビイチゴは大きく光沢がある。



副萼片

ヤブヘビイチゴ



#### ヤハズエンドウ (カラスノエンドウ)

(マメ科/つる性一年草)

花期・果期…3～6月  
生育場所…田畑の周辺・道端・空き地など

葉腋に短い柄を出し、紅紫色で蝶形の花を1～3個つける。  
葉の先端が三つに分かれた巻きひげになり他のものに絡みつく。  
果実は、熟すと果皮が自ら振(よじ)れて中の種を弾き飛ばす。  
また、葉先が矢筈(やはず)状にへこんだり、  
果実がカラスのように真っ黒になるところからこの名がある。

#### ツボスミレ (ニョイスミレ) (スミレ科/多年草)

花期…4～5月 生育場所…やや湿った平地や丘陵・山地  
当地に咲くスミレの最終バター。

小さな花のスミレといえばこの種で、唇弁の紫条が目立つ可愛い白い花をつける。

弁2枚が後ろに大きく反り返り、距は短い。  
茎は地上に立ち上がり、葉は丸みを帯びている。  
タチツボスミレと違い、托葉の縁はなめらか。



托葉

## ムラサキケマン (ケシ科/2年草)

花期…4～6月 生育場所…林縁

紫色の花が茎の上部に繸状につき、花の先だけ濃い赤紫。4枚の花びらが立体的で複雑な造りになっていて、距が後ろに長く突き出る。葉は2～3回羽状に細裂する。花が終わると、細長い果実が下向きにつく。熟すとわずかな刺激で弾け、バラバラと種子が飛び散る。



## ヤブニンジン (セリ科/多年草)

花期…4～5月

生育場所…日陰でやや湿った林内

枝先に複散形花序を出し、白い小さな花をまばらに咲かせる。花が終わると、棒状の果実を放射状に線香花火のようにつける。

葉はニンジンの葉に似て3出羽状複葉。小葉は卵形で深裂する。

当地では、湧水地近くの林縁に多く生育している。



## オトコヨウゾメ (ガマズミ科/落葉低木)

花期…4～5月 果期…9～10月

生育場所…日当たりのよい山野

葉は長さ4～9cmの卵形で対生する。葉柄が約5mmで、葉表面はほぼ無毛、平行する側脈が目立つ。枝先に5～10個の白色の花を放射状につける。果実は秋に赤く熟し、数は少なく垂れ下がる。当地では雑木林でよく見られる。



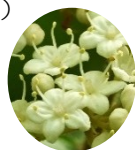
## コバノガマズミ (ガマズミ科/落葉低木)

花期…4～5月 果期…9～10月

生育場所…明るい山野

葉は長さ4～9cmの倒卵状で対生し、オトコヨウゾメと似るが葉柄は短い。

ガマズミより早く枝先に上向きの白花を多数つける。秋に卵球形の果実が赤く熟す。



## コゴメウツギ (バラ科/落葉低木)

花期…5～6月 果期…9～10月

生育場所…林縁

ウツギに似た白い小さな花を多数咲かせ、白米が砕けたように見えるところからこの名がある。ウツギの名はつくが、ウツギの仲間ではない。細い枝は赤く、先の尖った切れ込みの目立つ三角状の葉が互生する。



## ニワトコ (ガマズミ科/落葉低木)

花期…4～5月 果期…6～7月  
生育場所…身近な明るい山野

春早く、葉と同時にブロッコリーのような蕾が芽吹く。葉は奇数羽状複葉。

小葉は2対から3対、長さは5～12cm。  
淡黄白色の小さな花を円錐状に多数つける。

梅雨の頃に鮮やかな赤い卵球形の果実をつけ美しい。  
当地では湿地上部の草地で見られる。



## ヤマザクラ (バラ科/落葉高木)

花期…4月 果期…5～6月  
生育場所…丘陵地帯～低山



明治以降にソメイヨシノが普及するまで、  
花見と言えば本種を指し、日本の野生のサクラの代表選手。  
開花とほぼ同時に葉が開き、若葉は淡緑から赤茶色まで  
実に変化に富んでいる。

樹皮は樺細工、木材は主に版木として利用され、江戸時代に出版・印刷文化の隆盛を支えた。

当地では散策路添いの各所で見られるが、高く成長したものが多く花はやや見えにくい。



## ミツデカエテ (ムクロジ科/落葉高木)

花期…4～5月 果期…7～10月  
生育場所…山地～丘陵地

樹皮は灰褐色で全体的になめらか。

葉は3出複葉で対生、小葉は卵状楕円形で中程から先に粗い鋸歯がある。葉柄は6～10cmで赤味を帯びて風になびく。

旧年枝の上部に花序を出し、黄色の小さな花を多数つける。  
地味な花だが虫媒花で虫が集まる。

雌雄異株。当地にあるのは雄株で実はできない。

## ヤマツツジ (ツツジ科/半落葉低木)

花期…4～6月 果期…9～10月  
生育場所…丘陵地帯～低山

明るい雑木林や低山周辺で普通に見かける野生のツツジ。

よく枝分かれして横に拡がり、朱色の花が満開時には森の中で良く目立つ。

春に伸びた葉は秋に紅葉し落葉するが、夏から秋に伸びた葉は越冬し落葉しない。

当地では林縁の各所で見ることができる。



紅葉した葉と緑の葉



## 〈新緑の頃〉

### 里山の初夏に映える

樹々の緑が美しい季節を迎えました  
野生のランをはじめ 様々な花が咲き乱れます



#### キンラン (ラン科/多年草)

花期…4～5月 生育場所…明るい雑木林の林内

雑木林の若葉が輝き、薫風香る頃、明るい林内に黄色の目立つ花を咲かせる。

高さ40～60cmの花茎に3～10個の花をつけるが全開することは少なく、**ぷっくりと半開している。**

#### ギンラン (ラン科/多年草)

花期…5～6月

生育場所…明るい雑木林の林内

キンランとほぼ同じ生育環境に育つが、花期が少し遅めである。高さ15～30cmの花茎に3～4個の白い花をつけるが、キンラン同様半開のまま終わることが多い。キンラン、ギンラン、ササバギンラン三種の中では一番小型で派手さはなく清楚な印象を受ける。



#### ササバギンラン (ラン科/多年草)

花期…5～6月 生育場所…明るい雑木林の林内

ギンランとほぼ同じ生育環境に育つが、高さ30～40cmでギンランよりやや大型である。花の色は白くギンランとよく似ているが、本種は葉が細長く、花よりも高く伸び、笹の葉に似ているところからこの名がある。本種の葉裏は有毛で多少のザラザラ感があり、無毛であるギンランとの識別は可能。

#### サイハイラン (ラン科/多年草)

花期…5～6月 生育場所…雑木林の林内

雑木林周辺のやや暗めの林床を好む。

高さ30～40cmの直立した花茎の上部に多数の細長い花をやや垂れ気味につける。

淡褐色や淡紅色が多い。花の姿が、**戦国武将が戦場で使用した采配に似ているところからこの名がある。**

当地では最も多く見られるラン科植物である。



野生ランは森林土壌中の菌類と共生関係にあるため、移植しても育つことはありません。当地で美しく咲く花々を楽しんでください。





### フタリシズカ (センリョウ科/多年草)

花期…4～6月

生育場所…雑木林周辺の林床

高さ30～60cmの花茎をほぼ真っすぐに立て、その先端に1～5個ほどの白い花序をつける。「フタリシズカ(二人静)」の名とは異なり、花序数は一定しない。葉はほとんど光沢がなく、2～3対がやや間隔を空けて対生する。当地では「東屋(あずまや)」直下のベンチ周辺と近くの広場に群生する。

### オヤブツラミ (セリ科/二年草)

花期…5～7月 生育場所…丘陵や山の林縁

茎は直立し、上部で枝分かれして小さな白い花をまばらにつける。葉は3回羽状複葉で、小葉は細かく裂ける。茎や葉は紫色を帯びる。

花が終わると紫色を帯びた果実がつく。果実にはカギ状の突起があり、動物の身体や衣類につきやすい。当地では、湿地付近の散策路沿いに多く生育している。



### ニガナ (キク科/多年草)

花期…5～7月 生育場所…日当たりが良い草地

花は黄色で、舌状花が5～6個集まり1個の花のようになる。

葉は茎を抱くようにつき、まばらな羽状に切り込む。茎や葉を切ると苦みのある乳液が出る。当地では湿地付近の日当たりが良い散策路沿いに生育している。

### キツネノボタン (キンポウゲ科/多年草)

花期…5～7月 生育場所…やや日陰の湿った草地

茎は直立し、上部でよく枝分かれする。葉は3出複葉で小葉も深く切れ込み、両面に伏した毛がある。

花は直径約1cmの黄色で、葉の脇に数個つける。花の後は金平糖のようになり、一つの果実の横断面は片側のみに3つの角がある。





## ウワミズザクラ (バラ科/落葉高木)

花期…4～5月 果期…8～9月

生育場所…丘陵地から山地の日当たりが良い場所

小さな白い花が総状に集まって、試験管ブラシのような花序をつくる。葉が出た後に一斉に花を咲かせる。小さな花を虫眼鏡で見ると桜の形をしていて可愛らしい。

ウワミズザクラは花序の下に葉がつくが、同属で当地でもよく見かけるイヌザクラには葉が見つからない。



イヌザクラ

## ミズキ (ミズキ科/落葉高木)

花期…4～5月 果期…10～11月

生育場所…平地・丘陵～山地

水平に伸ばした枝を四方に広げ、階層を重ねたような独特の樹形をしている。

長い葉柄を持ち、丸みがあって先が尖る葉が互生する。枝先の集まった葉の上に丸く広がる花序を出し、小さな白い花を密につける。

樹液が多く、早春に枝を切ると切り口から水が滴ることから、この名がついた。



## エゴノキ (エゴノキ科/落葉小高木)

花期…5～6月 果期…9～10月

生育場所…雑木林や山地の周辺

枝先に深く5裂した白い花がいくつも集まって下向きに咲き、満開時は甘い香りがする。

花期が過ぎると、花冠は花柱だけを残してすっぽり抜け落ちて一面に散り敷く。

葉は、丸みを帯びたひし形で、葉裏と葉柄に星状毛がある。

果実は白っぽい球形で、たくさんぶら下がる。秋には裂けて種子が出てくる。



## ツクバネウツギ (スイカズラ科/落葉低木)

花期…5～6月 果期…9～11月 生育場所…林縁

木の姿はウツギに似るが、ウツギの仲間ではない。

通常、枝先に漏斗状の白い花を2つつける。花の先は5つに切れ込み、内部に橙色の網目模様がある。

花の後も赤茶色の萼片が実に残り、これが“羽根つき”の羽根に似ていることからこの名がある。



## ヤブデマリ (ガマズミ科/落葉低木)

花期…5～6月 果期…8～10月

生育場所…湿った林内

一見、ガクアジサイにも見えるが全く別種である。

花の中心にはクリーム色の小さな両性花が多数あり、その周りを5裂した白い大きな装飾花が囲む。装飾花の1片だけは特に小さい。

毬のように可愛らしい姿が名前の由来である。

果実は秋に赤く熟し目立つ。

## ニシキギ (ニシキギ科/落葉低木)

花期…5～6月 果期…10～11月

生育場所…山野や林内の林縁

樹皮は灰褐色、若い枝は緑色で、枝にコルク状の薄い翼が発達する。葉は対生。長さは2～7cmで先端が鋭く尖り、縁に細かく鋭い鋸歯がある。

淡黄色の地味な花を咲かせる。果実は1～2個に分かれ、熟すと割れて橙赤色のタネが現れる。

秋の紅葉は鮮やかで美しい。

よく似たコマユミは、枝にコルク翼は発達しない。



## ツリバナ (ニシキギ科/落葉低木)

花期…5～6月 果期…9～10月

生育場所…明るい林内・林縁

やや紫がかった淡緑色の花がモビールのように木に吊り下がる。

5枚の花びらはしっかりと開く。

秋には熟した球形の赤い実が“くす玉”のように5つに分かれ、それぞれについた朱色のタネが顔を出す。どちらの姿も愛らしい。



## アオハダ (モチノキ科/落葉小高木)

花期…5～6月 果期…9～10月

生育場所…丘陵・低山地の落葉樹林内

雌雄異株。樹皮は灰色っぽく、引っかくと内皮の緑色(緑を“アオ”と表現)が見えるので、この名となっている。

葉は楕円形～卵形。短枝の先に集まってつく。短枝の先の葉に混じるように、白い小さな花が束になって咲く。果実は赤く熟す。

秋も深まると薄く黄葉し、青空に映えて美しい。





## ガマズミ (ガマズミ科/落葉低木)

花期…5～6月 果期…9～11月

生育場所…林内・林縁



毛の多い丸みのある大きな葉が  
対生する。葉柄は長く1cmほどある。

雄しべの目立つ小さな白い花を多数咲かせるので、  
見た目は豪華である。秋にはこれが赤い実となる。  
よく似ているコバノガマズミの葉は細長く、先が  
尖っており、葉柄は短く5mm以下。花期はガマズ  
ミより早い。

## マルバウツギ (アジサイ科/落葉低木)

花期…4～5月 果期…10～11月

生育場所…林縁

ウツギに比べ葉には丸みがあり、対生で  
両面ともかなりざらついている。

花のすぐ下の葉は柄がなく茎を抱くように  
つく。

5枚の花弁を持つ白い小さな花を上向きに多数つける。



## ネジキ (ツツジ科/落葉低木)

花期…5～7月 果期…9～10月

生育場所…丘陵や山地の尾根や斜面

樹皮は灰黒褐色で縦に裂け目が入り、成長するに  
つれて螺旋状のねじれ模様がはっきりしてくる。

葉は互生で、長さ6～10cmの卵状楕円形。

前年に出た枝葉の脇から伸びる花茎に、  
小さな白い花が下向き一列に並ぶ。

秋には黄色から赤色に紅葉して美しい。

冬芽は赤褐色で光沢がある。



## ゴズイ (ミツバウツギ科/落葉小高木)

花期…5～6月 果期…9～11月

生育場所…日当たりの良い雑木林

樹皮は黒褐色で縦に不規則な割れ目が入る。

葉は奇数羽状複葉で、狭卵形の小葉は2～5対。

枝先に約20cmの円錐花序を出し、淡黄緑色の  
小さな花を多数つける。

果実は1cmほどの半月形で、熟すと割れて  
黒いタネが顔を出す。

果実は葉が緑色のうちから赤くなるためよく目立つ。



## 〈梅雨の頃〉

雨空にひっそり咲く

日に日に 緑が濃くなる季節

雑木林では 清楚な花が迎えてくれます



### イチヤクソウ (ツツジ科/多年草)

花期…6～7月

生育場所…低山の林内

葉は広楕円形でやや厚みがあり、  
根元に集まってつく。

常緑で、冬でも緑色の葉がよく目立つ。

葉脈は白く明瞭。

葉の間から花茎を立て、上部に数個の可愛らしい白い花をつける。

名の由来は、草全体を乾燥し薬として利用したことによる。



### オカトラノオ (サクラソウ科/多年草)

花期…6～7月 生育場所…草地・風通しの良い林縁

草丈 50～100cm 弱。

直立した花茎の先に白く小さい花を数多く穂状につける。  
花序は全体として垂れ下がり、**ユサユサと風に揺れる姿が  
虎のシッポのように見えることからこの名がある。**

地下茎を長く伸ばして繁殖するので、群落をつくる  
ことが多い。

当地では堀口天満天神社から茶畑への散策路沿いで  
見られる。



### ムラサキニガナ (キク科/多年草)

花期…6～8月

生育場所…丘陵地の林内や林縁の日陰

茎は直立して無毛、草丈1mを超えることもある。

下部の葉は羽状に裂けるが、上部の葉は細長く裂けない。

花は直径1cmほどで濃赤紫色、多くは下向きにつく。

茎や葉を傷つけると白い乳液が出る。

当地では堀口天満天神社近くの林縁で見られる。

## ジャノヒゲ (クサスギカズラ科/多年草)

花期…7～8月 果期…11～12月 生育場所…林縁  
細い葉の形を蛇や竜のひげにたとえて「リュウノヒゲ」とも呼ばれる。水平に伸びる茎を持ち、群生する。

葉は長さ10～40cmで多数出て、幅2～3mmと細く、固い。葉には細かい鋸歯がある。

5～10cmの花穂を出し、白または淡紫色の花を繸状につけ、下向きに開く。

種子は球形。葉の根元で鮮やかな瑠璃色に熟す。



## ナガバジャノヒゲ (クサスギカズラ科/多年草)

花期…7～8月 果期…ジャノヒゲより遅く熟す  
生育場所…林内や日陰の林縁

株立ちで、数年かけて大きく育ち、こんもりと茂ったようになる。

葉は細長く30～40cmにも伸び、幅1.5～2.5mm。

葉には細かい鋸歯がある。

花は葉の間に5～10cmの花穂を出す。葉の茂みの中で隠れるように下向きに咲くので見つけにくい。色は白または淡紫色。花茎はジャノヒゲより長い。

種子は球形、瑠璃色で光沢がある。



## オオバジャノヒゲ (クサスギカズラ科/多年草)

花期…7～8月 果期…11～12月

生育場所…林内や日陰の林縁

水平に伸びる茎を持ち、群生する。

葉は長さ5～30cm、幅4～7mmで細長く根元から広がる。

ジャノヒゲより厚みがあり、幅も広い。縁はわずかにざらつく。

花茎は10～30cm。花を下向きにつける。ジャノヒゲより一回り大きい。花の色は白または淡紫。

種子は球形で、熟すとやや緑がかった黒色になる。



## 「トラびよん」の里山コラム

「里山はパッチワーク」と言われることがあります。

さして広くない範囲に雑木林、竹林、湿地、草地、田んぼ、畑など様々な異なる環境が隣り合わせになり、相互に関わりあっています。

当地ではかろうじて狭山丘陵らしく茶畑が残されており、毎年八十八夜の頃に多くのスタッフが集まって茶摘みや焙煎、喫茶を楽しんでいます。





## コアジサイ (アジサイ科/落葉低木)

花期…6～7月 果期…9～10月

生育場所…明るい林内・林縁

アジサイの野生種。

葉は対生で先は尖り、大きな三角状の粗い鋸歯を持つ。

アジサイによく見られる装飾花は持たない。白～淡青色の雄しべが目立つ小さな5弁の両性花を多数咲かせる。

その様子は小さいがとても華やかである。

## テイカカズラ (キョウチクトウ科/つる性常緑樹)

花期…5～7月 果期…10～11月

生育場所…やや暗めの林内外

地面を這うつるは、花を咲かせない。木や岩に付着根を出して這い上ると葉も大きくなり、白い花を咲かせる。

5裂した径2cmほどの花は小さなスクリューを思わせ、ほのかに香る。高い所で開花するためか気づかないことが多い。

秋に2本一組の細長い実をつけ、冬になって裂けると細い綿毛のついた種子が風に乗って運ばれる。

ニシキギ科のツルマサキと酷似するが、本種は茎・葉の断面から有毒の白い乳液を出すことで区別できる。



## ムラサキシキブ (シソ科/落葉低木)

花期…6～8月 果期…10～11月

生育場所…低山や平地の雑木林

葉は対生で長楕円形、先は尾状に尖る。

基部はくさび形で、縁には細かい鋸歯があり、両面とも無毛。

葉腋から集散花序を出し、淡紅紫色の花をつける。

名前の由来は、秋に実る紫色の美しい実を平安時代の女流文学者「紫式部」に例えたもの。

当地では雑木林の所々で見られる。

よく似たヤブムラサキは全体的に毛が多く、葉を触るとふわっとしたピロードのような感じがする。



ヤブムラサキ

## リョウブ (リョウブ科/落葉小高木)

花期…6～8月 果期…10～11月

生育場所…丘陵～低山の各所

高さ3～7m。葉は互生し、枝の先端に集中する傾向がある。

花は多数の小花が穂状花序となり、葉の間から飛び出るように咲くので目立つ。蜜が多いためか昆虫がよく訪花する。

成木の樹皮は不規則に剥がれて鹿の子模様になり、かつては床柱によく利用された。

当地では風通しのよい林縁の随所で見られる。



## マンリョウ (サクラソウ科/常緑小低木)

花期…6～7月 果期…11月～ 生育場所…暗い林内

茎は直立し上部に少数の枝を広げ、それぞれの枝で葉が互生する。葉は長楕円形で鋸歯は波打っている。

葉の付け根に白い花を多数下向きにつけ、秋にはこれが鮮やかな美しい赤い実となる。



## カラタチバナ (サクラソウ科/常緑小低木)

花期…7～8月 果期…10月～ 生育場所…暗い林内

マンリョウに似るが、カラタチバナの茎はほとんど分枝せず、葉の付け根に下向きの白い花を多数つける。互生だが輪生に見えるその葉は、細長くシャープであり鋸歯は細かく目立たない。

秋には赤い実を多数つけるが、マンリョウよりは少ない。

別名「ヒャクリョウ (百両)」ともいう。



## ヤブコウジ (サクラソウ科/常緑小低木)

花期…7～8月 果期…10月～

生育場所…暗い林内

マンリョウやカラタチバナに比べるとかなり小さい。枝は地表を這って広がり群生する。

小さな木のわりには、大き目のつやのある葉が茎の上部に数枚集まってつく。

下向きの白い花を数個つけ、冬にはそれが赤い実となる。

別名「ジュウリョウ (十両)」ともいう。

## 〈盛夏の頃〉

### 夏の緑陰を彩る花たち

強い日差しが照り付ける 真夏  
雑木林の中は 少し涼しく感じます



#### アキノタムラソウ (シソ科/多年草)

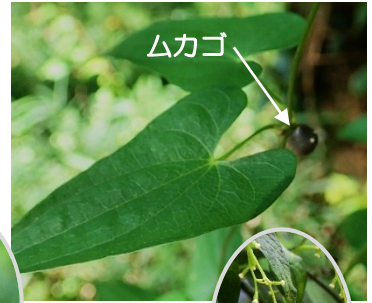
花期…7～11月 生育場所…道端や林縁  
全長20～50cmで、やや暗めの林縁や道端に普通に生える。

“秋”の名がついてはいるが夏から咲き始める。葉は対生。茎はシソ科特有の四角形で直立し、その上部に10～20cmの花穂を出す。花は小さな淡紫色で、口を開けたような唇形花が5～20段に輪生し、下から順に咲いていく。また、花には軟毛が多い。当地では湧水地付近の散策路沿いで多く見かける。

#### ヤマノイモ (ヤマノイモ科/つる性多年草)

花期…7～8月 生育場所…山道・道端

ヤマノイモは1本の根が発達して芋になり、「自然薯」と呼ばれて食用になる。雌雄異株で、雄株の花序は直立し、6個の雄しべがある。雌株の花序は垂れ下がる。種子は円形で、まわりに薄い翼がある。また、葉腋に発生するムカゴによっても増える。葉は対生で、長いハート形。



雄花

雌花



#### オニドコロ (ヤマノイモ科/つる性多年草)

花期…7～8月 生育場所…山道・道端

ヤマノイモと違い根が太くならず、曲がった地下茎からひげ根が出る。このひげ根の様子を腰の曲がったひげの老人に例え「野老(ところ)」と呼んだことから別名「トコロ」と呼ばれる。

雌雄異株。雄株の花序は直立し6個の雄しべがある。雌株の花序は垂れ下がる。葉は互生で、丸みを帯びたハート形で先が尖る。種子は平らな楕円形で、片側にだけ長い楕円形の薄い翼がある。葉腋にムカゴはつかない。所沢市の「市章」は、オニドコロの葉を図案化したものとのこと。





## オオバギボウシ (クサスギカズラ科/多年草)

花期…7～8月 生育場所…山地の草原・山道

葉柄の長い、葉脈のはっきりした大きな葉が根生する。

0.5～1 mの花茎をまっすぐ伸ばし、白～薄紫色の

ラッパ形の花を多数横向きにつける。

柔らかい若葉はウレイという山菜として知られるが、有毒のバイケイソウとよく似ているので注意が必要。



## カラスウリ (ウリ科/つる性多年草)

花期…8～9月 生育場所…明るい林縁・道端

雌雄異株で、草木に巻きひげで絡みついて伸びる。

葉の表面は短い毛で密に覆われる。

白い花冠が5裂し、その先は糸状に裂け、レースの

ようになった花は豪華である。しかし、開花は日没から夜明けまでのため、昼間きれいに開いた花を目にすることはない。

秋にはよく目立つオレンジ色の大きな実をつける。



## ウバユリ (ユリ科/多年草)

花期…7～8月 生育場所…雑木林や林内の日陰

葉は根生葉のみで、葉柄は長く卵状心形。年を経て鱗茎(球根)が

太ると茎が伸びて50～100cmに達し、茎の先端に総状に

花をつける。花は緑白色で長さ12～17cm、横向きに咲く。

果実は楕円形で上向きにつき、

熟すと3個に裂開する。

中には膜状の翼のある扁平な

種子が詰まっている。

名の由来は、花が咲くころには

根もとの葉が枯れてなくなることから、

葉がないのを歯なしの姥に例えたもの。



## アマチャツル (ウリ科/つる性多年草)

花期…8～9月 生育場所…野や山の林下

雌雄異株。

茎は地中で伸び、地上部はつるとなって他の植物などに

巻きついて長く伸びる。葉は互生で葉柄が長く、その先端に

鳥の足のような形に広がった通常5枚に分かれた小葉がつく。

葉腋に直径約5mmの黄緑色の花を総状につけ、

花冠は5裂して尾状に尖る。果実は球形で、黒緑色に熟す。

名前の「甘茶」は、古くからお茶として利用され、

乾燥した葉を煎じるとほのかな甘みがあることに因る。



## ヤマユリ (ユリ科/多年草)

花期…7～8月 生育場所…山や丘陵の林縁や傾斜地

草丈は100～150cm。花弁が外に弧を描きながら広がり、1～10個の花が咲く。花弁に紅色の斑点があり、中央に淡黄色の筋がある。

成長段階によって花の向きが異なり、蕾は下向き、花は横、果実は上を向いてつく。

当地の夏花の女王。大きく豪華な白い花を咲かせ、甘く濃厚な香りを振りまく。日本固有種。



## ヌスビトハギ (マメ科/多年草)

花期…7～9月 生育場所…道端・草地・林縁

草丈は60～120cm。根元が木の幹のようにやや固くなる。茎は多く分岐し、葉が茎全体に分散してつく。葉は互生。先が尖った卵形の小葉が3つ集まって1枚の葉となる。

花はピンク色で3～4mmと小さく、細長い花序となる。果実は眼鏡のように2個にくびれている。かぎ状の毛があり、動物にくっついて運ばれる。果実の形が、足袋をはいた盗人が、つま先立ちで忍び歩いたときの跡に似ていることから、この名がついたという説もある。

## ヤブミョウガ (ツククサ科/多年草)

花期…8～9月 生育場所…湿った暗い林内・林縁

草丈は0.5～1mと大きい。

葉はつや(光沢)があり、ざらつく。

茎の中ほどに集まってつく。

花茎の先に、両性花と雄花が混在する白い花が段々に輪生する。

初秋に黒紫色の実を多数つける。

葉がミョウガに似ていることからこの名がある。

食用にするミョウガはショウガ科で、地下茎の先端に花をつける。



## ミスタマソウ (アカバナ科/多年草)

花期…8～9月 生育場所…山野の林下

葉は対生で長卵形、先端は尖り、縁には浅い鋸歯がある。

茎の先や葉腋から花序を出し、白色の小さな花をつける。

花柄や花序には腺毛が多い。

果実は広倒卵形で、カギ状に曲がった毛が密生する。

和名は白い毛のある果実を水玉にたとえたもので、朝露をためて輝く果実は美しい。



## ダイコンソウ (バラ科/多年草)

花期…6～9月 生育場所…日陰

全長 30～60cm ほどで全体に軟毛があり、根生葉が大根に似ているためこの名がある。

枝先に黄色の5弁花を一つずつつけ、雄しべ、雌しべ共に多数ある。花が散ると雌しべが伸び、先端がカギ型に曲がって動物などに付着し種子が運ばれる。

当地ではやや暗めの林縁などで目にする事ができる。



## ヤブラン

(クサスギカズラ科/多年草)

花期…8～10月 生育場所…山道・林内

細長い葉が多数根生する姿はシュンランに似ているが、その葉は深緑色で厚く光沢がある。ランの仲間ではない。

花茎に淡紫色の小さな花を穂状に多数つける。

花の後、光沢のある黒い種子を多数つける。



## クサギ (シソ科/落葉小高木)

花期…8～9月 果期…10～11月

生育場所…日当たりの良い林縁や空地

高さ2～5mで、伐採、倒木などでできた明るい空地にいち早く進出するパイオニア植物の代表格である。

葉や枝に独特の臭気があるためこの名「臭木」がある。

花は赤い萼と白い花のツートンカラーで、長い雄しべと雌しべを突き出して咲き、この鮮やかな色と強い芳香でチョウやガを引き寄せる。

また、果期には黒紫色の果実と赤い萼の二色効果で鳥を引き寄せる。

花も果実も目を見張る美しさがある。



雄花



雌花

## サネカズラ (マツブサ科/つる性常緑樹)

花期…8～9月 果期：10～12月 生育場所…雑木林の林縁

雌雄異株または同株。葉は互生、長楕円形又は卵形で、縁にまばらに鋸歯がある。葉腋に直径約 1.5cm の黄白色の花をつける。花は球形の集合体で、雄しべは赤色、雌しべは黄緑色。果実は直径約 3mm の小さな実が集まって、和菓子の「鹿の子」のよう。11 月頃に赤く熟す。

別名「ピナンカズラ」のピナンは“美男”で、かつて武士たちが樹皮や枝の粘液を整髪料としたことによる。古くから親しまれ、「万葉集」や「小倉百人一首」にもその名が出てくる。



## 〈初秋の頃〉

### 秋の訪れを告げる花々

まだまだ 日中の暑さは続きますが  
林の中では 季節の移り変わりを感じます



#### サジガンクビソウ (キク科/多年草)

花期…8～10月 生育場所…山道

茎はあまり分枝しない。上部の葉は小さく細長いが、  
根生葉はロゼット状の幅広なへら形で花期にも枯れずに残る。  
この葉をサジに見立て、花のつき方が  
キセルの雁首と似ているためこの名がある。  
舌状花のない緑白色の花は目立たない。

#### ガンクビソウ (キク科/多年草)

花期…8～10月  
生育場所…林内・林縁

茎は直立し、上部で分かれた枝先に花を一つずつ、やや下向きにつける。その様子がキセルの雁首に似ることからこの名がある。花は多少黄色く見えるが、サジガンクビソウ同様、舌状花がないため目立たない。  
葉は楕円形で、花期には根生葉は枯れて見られない。



#### ヒヨドリジョウゴ (ナス科/つる性多年草)

花期…8～9月 果期…10月～  
生育場所…明るい林内や山道の縁

全体的に柔らかい毛が密生する。  
葉は長さ3～10cmの卵形で互生。下部の葉は深い切れ込みがある。直径1cmほどの白い花を集散花序に多数つける。花冠は深く5裂し、裂片はそり返る。果実は直径約8mmで、とても鮮やかな赤色に熟して美しい。

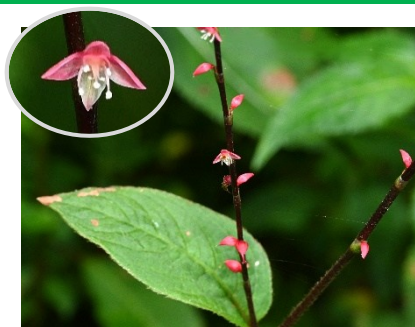
ヒヨドリがこの実を好んで食べることが名の由来とされるが、実際にはあまり人気がなく、冬になっても残っていることが多い。

#### ヒヨドリバナ (キク科/多年草)

花期…8～10月 生育場所…明るい林縁や草地

高さ1mを越す茎がほぼ直立する。葉は対生し先端が尖る。頭状花序は5つほどの白い筒状花が集まったもので、花冠は先端が浅く5裂する。開花期にはアサギマダラをはじめ多くのチョウが訪花する。当地では堀口天満天神社から茶畑へ向かう散策路沿いの林縁に散在する。





### ミスヒキ (タデ科/多年草)

花期…8～10月 生育場所…林縁

草丈は50～80cm。葉は互生し、7～15cmの卵形で先が尖る。葉の中央に斑模様が入ることがある。ごく細い枝に小さな赤い花をまばらにつける。花被は4個に分裂し、そのうち上側3個の半分ほどが赤く、下側1個が白い。上から見ると赤く、下から見ると白く見えることから「水引」という名がついた。

### キツネノマゴ (キツネノマゴ科/一年草)

花期…8～10月 生育場所…道端や林縁

高さ10～40cmで枝先に7～8mmの淡紅紫色の唇形花を穂状につける。茎は四角形。初秋から晩秋まで花期が長く、この時期になにげなく足元を見ると本種があることが多い。茎は倒れることが多く、数多く分枝する。花穂の形がキツネの子供の尾より更に小さいのでこの名がある。

当地では湿地から東屋にかけての散策路沿いで多く見かける。



### スズメウリ (ウリ科/つる性一年草)

花期…8～9月 果期…9～10月

生育場所…湿り気のある林内

葉と向き合って巻きひげが出るつる性植物で葉は三角状卵心形。

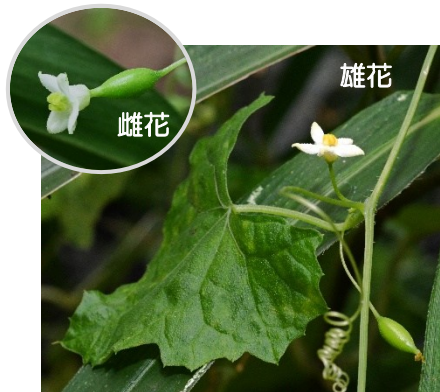
葉腋に白い雄花と雌花をつける。

雌花は花の直下に大きく膨らんだ子房が目立つ。

果期に直径1～2cmの果実をつける。

はじめは緑で熟すと白くなる。

カラスウリより小さいので、この名があるとも言われる。



### ヤブタバコ (キク科/一～二年草)

花期…9～11月 生育場所…山地の林下

茎は太く1mほどに伸びると、そこから3本の横枝が放射状に拡がり、上には伸びない。

花はガンクビソウに似るがつき方は異なり、互生している葉の脇に多数つく。

花期には根生葉は枯れてなくなる。

葉がタバコの葉に似ていることからこの名がある。



## ヤマホトトギス・ヤマジノホトトギス (ユリ科/多年草)

花期…7～10月 生育場所…山地の林下

ヤマホトトギスの葉は互生し、長楕円形で先が尖る。花期に茎頂や葉腋から散房花序を出し、約2cmの白花を上向きにつける。花被片は白色地に紫色の斑点があり、全開し下向きに反り返る。花柱は直立し、雄しべは上部で反り返る。また、茎に上向きの毛が密生する。ホトトギスの名は、花の模様が鳥のホトトギスのおなかの模様に似ていることに由来している。



ヤマ  
ホトトギス

よく似たヤマジノホトトギスは、白花が葉腋から2～3個つき、紫斑があり平開する。

また、茎に下向きの毛が密生する。

当地での花の時期はヤマホトトギスより若干遅くなる。



ヤマジノホトトギス



## キンミズヒキ・ヒメキンミズヒキ (バラ科/多年草)

花期…7～10月 生育場所…山や丘陵の草地

キンミズヒキの草丈は50～150cm。

花は黄色で小さく、上部に密生し、下部はまばら。

雄しべの数は8～15本。

葉は、葉軸の左右に小葉が2～4対で先は尖っている。

よく似たヒメキンミズヒキの草丈は30～50cm、

花はまばらで、雄しべの数は5～8本と少ない。

葉は、葉軸の左右に小葉が1～2対で、

先は丸みを帯びている。



ヒメキンミズヒキ

## 「トラぴょん」の 里山コラム

右は、1964年(昭和39年)に2号地周辺を撮影した航空写真をもとに作成したイラストです。

この頃までは、2号地入口付近(湿地付近)には田んぼがあったことが確認できます。

また、堀口天満天神社側の茶畑とその南側には畑が広がっている様子を見ることができます。

雑木林と針葉樹林については、現在との大きな違いはないようです。



## 〈秋の頃〉

### 可憐に咲く野の花々

秋… 里山は 小さく可愛らしい花々や  
美しく色づく果実に 彩られます

#### イヌタデ (タデ科/一年草)

花期…6～10月 生育場所…草地・道端

茎は赤みを帯び、披針形の葉が互生する。

小さな紅色の花を密につけるので、これを赤飯に見立て

「赤まんま」とも呼ばれる。

“イヌ(犬)”とは役立つはずの意味で、辛みのあるヤナギタデのように食用に利用されないことからつけられたともいわれる。



#### ハナタデ (タデ科/一年草)

花期…8～10月 生育場所…林内・林縁

イヌタデに比べやや湿ったところを好む。

葉は互生する。先端が尾状に尖った長卵形で中央部に暗色斑が見られることも多い。

花序は細長く伸び、淡紅色の小さな花をまばらにつける。

当地では入口の湿地付近で見られる。



#### ゲンノショウコ (フウロソウ科/多年草)

花期…7～10月 生育場所…山・丘陵の草地

草丈は30～50cm。茎は枝分かれてして地面を這って拡がり、上部は立ち上がる。

全体に毛が多い。下部の葉は5裂、上部の葉は3裂。

枝先及び葉腋から長い茎を出して、花を2～3個つける。花びらの色は白または赤。

漢字名は「現の証拠」で、飲めば下痢がすぐ治ることが名前の由来。



左は、現在の2号地を上から見たイメージイラストです。2号地周辺は、1985年(昭和60年)頃には荒地となり、一帯を墓地として開発する話もあったそうですが、1991年に「トトロのふるさと基金」が「トトロの森1号地」を取得、それに続き1993～1994年に埼玉県が「トラスト2号地」を取得したことにより、里山の美しい自然が守られ、現在に至っています。





果実

### ツリフネソウ (ツリフネソウ科/一年草)

花期…7～10月 生育場所…水辺や湿った場所  
葉は互生、長さ約5～13cmの楕円形で細かい鋸歯がある。  
葉腋から花序が斜上し、紅紫色の花を数個つける。  
花は長さ3～4cmの大きな袋状で、その後端で細長い距になってクルリと巻く。  
果実は熟すとちょっとした刺激で果皮がはじけ、種子をとばす。

当地では数年前に確認され、その後、急激に広がっている。  
同属のキツリフネは湿った木陰に生え、黄色の花をつける。



キツリフネ



### ミソソバ (タデ科/一年草)

花期…7～10月 生育場所…あぜ・湿地

下向きのとげを持つ茎は地面を這って拡がり、上部だけ立ち上がって群生する。

葉は逆さに見ると形が牛の顔に似ていることから、「牛のひたい」とも呼ばれる。

頭状花序で、下部が白色、先端が紅色のかわいらしい花が10数個集まってついている。

当地ではツリフネソウとともに湿地に群生する。



### ホトトギス (ユリ科/多年草)

花期…8～9月

生育場所…丘陵～山地のやや湿ったところ

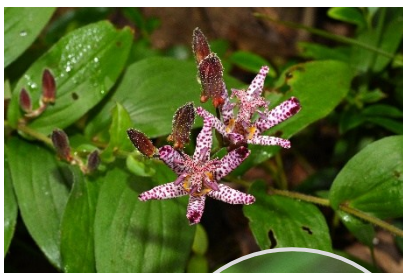
高さ40～70cm。

〈初秋の頃〉に掲載したヤマホトトギス、ヤマシノホトトギスと同属であるが、花被片が、ヤマホトトギス(強く反り返る)、ヤマシノホトトギス(平開する)と異なり斜開する。

花被片には紅紫色の斑点が多数ある。

茎には上向きの毛が密生する。

当地での個体数は同属二種と比べてそれ程多くはない。



茎の毛



## ノブキ (キク科/多年草)

花期…8～10月 生育場所…やや湿った林床

葉は腎円形で先がやや尖り、長い葉柄に狭い翼がある。

葉裏は綿毛が生えて白っぽい。

真っすぐに立つ茎の上部が枝分かれして、小さな花を多数つける。

花は白色で中心部に両性花が集まり、それを取り囲むように7～11個の雌花がつく。両性花は結実しない。

名は葉がフキの形に似ていることに由来する。



## シラヤマギク (キク科/多年草)

花期…8～10月 生育場所…山地の林縁

高さ1～1.5mで、シロヨメナやユウガギク、ノコンギクなど野菊の仲間の中ではやや大型。葉と茎はざらつく。葉は下の方につくものほど大きなハート形で葉柄と翼を持つ。

花序は白い舌状花と黄色の筒状花からなるが、舌状花がややまばらで歯の抜けたような印象を受ける。

当地では堀口天満天神社から茶畑へ向かう散策路沿いに散見される。



## シロヨメナ (キク科/多年草)

花期…9～11月 生育場所…林縁

高さ30～90cmで茎の上部でよく枝分かれする。

葉は長い楕円形で先が尖り、基部はくさび型となる。

葉には3本の葉脈が目立ち、鋸歯も大きい。

花序は前出のシラヤマギク同様、白い舌状花と黄色の筒状花からなるが、舌状花の数は多い。

また、近年、全国的にシカによる山野草の食害が大きな問題となっているが、本種はシカの「不嗜好性植物」として知られている。



## ノダケ (セリ科/多年草)

花期…9～11月 生育場所…山野の林縁

茎は直立して暗紫色、高さ1mを超えるものもある。葉はふつう3出羽状複葉で、小葉は長楕円形または長卵形。小葉の裏は白みがあり、基部はしだいに細くなる。

花は暗い紫色をした小花が多数集まって傘状につく。

果実は平たい楕円形で、カレー粉のような匂いがある。

名の由来は、枝分かれが少ないことを竹に見立てたもの。



## センニンソウ (キンポウゲ科/つる性半低木)

花期・果期…8～9月 生育場所…山・丘陵の草地  
あちらこちらに絡みついて旺盛に生育していく。  
小葉は3～7枚で、表面には光沢があり、卵形で先が細る。  
花には花びらが無い。白くて細長い4枚の萼が花びらの  
ように見える。  
果実には長さ3cmくらいの白い羽毛状の花柱（雌しべの  
本体）が残る。この様子が**仙人のヒゲのように見える**  
ことからこの名がついた。  
当地では、湿地の奥、橋の近くのクサギに絡みついている。



## コウヤボウキ (キク科/落葉低木)

花期…9～10月 果期…10月～  
生育場所…林縁

茎は細く根元から多数出る。  
その年に出た枝に毛の生えた卵形の葉が互生し、  
その先に1個ずつ花をつける。2年目の枝には花を  
つけない。白い花は10数個の筒状花からなり、  
花の先は反り返る。  
高野山で細い枝を束ねて帯にしていたことから  
この名がある。  
よく似たナガバノコウヤボウキは、葉に毛がなく、  
花期が早く、2年以上たつ枝の節に花をつける。

## キツタ (ウコギ科/つる性常緑樹)

花期・果期…10～12月 生育場所…山野の林縁や林内  
本種は**付着根を出して、樹木などを這い上がる**。  
葉は互生で、葉身は長さ3～7cmの三角形または  
五角形状。肉厚な革質で、表面には光沢がある。  
枝先に直径2.5～3cmの球形の散形花序を出し、  
黄緑色の小さな花を多数つける。別名「フユツタ」。  
果実は直径8～10mmの球形で、水分が多い。  
若い果実は赤紫褐色だが、翌年の春に黒く熟す。



## チャノキ (ツバキ科/常緑低木)

花期…10～12月 果期…翌年11月～  
生育場所…丘陵地帯

高さ1～2m。葉は楕円形。  
花は白い5弁花で、**花柄のある点**が同属のヤブツバキ、  
サザンカと異なる。少しうつむいて咲くことが多い。  
関東以西で古くから人為的に広く栽培され、新葉（新芽）を  
摘んで喫茶用に焙煎する。

新芽  
一芯二葉



秋から冬に  
雑木林を  
彩る実

秋から冬にかけて、当地では様々な色や大きさの実が森にあふれ、訪れる人の目を楽しませてくれます。実を食べに多くの鳥たちもやって来ます。ここでは、木の実を中心に、雑木林でよく見られるドングリや球果、果穂（かすい）も併せて紹介します。

〈赤い実〉



アオハダ



オトコヨウソメ



ガマズミ



ヒヨドリジョウゴ



コマユミ



ニシキギ



ツリバナ



カラス  
ウリ

\*おめでたトリオ\*



マンリョウ（万両）



カラタチバナ（百両）

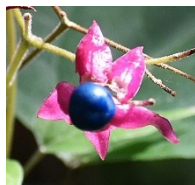


ヤブコウジ（十両）

〈二色効果の実〉



ゴンスイ（赤と黒）



クサギ（赤と青）

〈白い実〉



スズメウリ

〈青や紫の実〉



ジャノヒゲ



ナガバジャノヒゲ



ノササゲ



ムラサキシキブ



ヤブムラサキ

〈球果〉



スギ



ヒノキ



モミ

〈果穂（かすい） シデ3兄弟〉



アカシテ



イヌシテ



クマシテ



イヌシテ

クマシテ

アカシテ

〈ドングリ〉



コナラ



クヌギ



クリ



アラカシ



シラカシ



スタジイ

## 〈冬の頃〉

### 冬の森のお楽しみ

冬の森には何も無い？

いえいえ そんなことは ありません

#### カンアオイ (ウマノスズクサ科/多年草)

花期…10～12月 生育場所…山や丘陵の林床  
葉は逆ハート形で、表面に白っぽい斑が入るものが多い。これがアオイに似ていることから、この名がついた。冬でも葉は枯れない。  
花は地際から出て枯葉に埋もれていることが多い。茶色を帯びた紫色の花を咲かせる。  
サイハイランと並んで当地では随所でみられる。



#### オオハナワラビ (ハナヤスリ科/多年生シダ)

胞子の時期…秋～冬 生育場所…林内

夏に枯れる冬緑性のシダ。  
茎、葉柄には毛が生えている。  
3回羽状複葉の栄養葉はほぼ五角形で、縁は鋭鋸歯、鋸歯の先端も鋭く尖っている。  
花茎のように立ち上がった胞子葉は栄養葉より長く、丸い胞子嚢を多数つけ、秋には黄色くなる。  
オオハナワラビに似るフノハナワラビはほとんど毛がなく、栄養葉の縁は鈍鋸歯である。



フノハナワラビ

#### ヤツデ (ウコギ科/常緑低木)

花期…11～12月 果期…翌年4～5月  
生育場所…丘陵地帯の日陰

高さ2～4m。丘陵地帯ほか各地の日陰に自生し、また庭木としてもよく植えられる。  
大型の掌状(手のひら状)の葉に特徴があるが、葉の切れ込みの数は“八”とは限らず、種名は単に数の多さをあらわしている。  
花は、初冬に5枚の花弁と5本の雄しべが先に出て、それが散ると雌しべが伸び、昆虫(主にハエ類)が運んで来る花粉を受け取る。

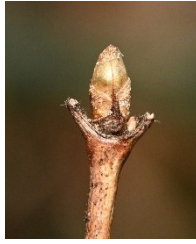


春を待つ  
小さな  
冬芽たち

冬。狭山丘陵の一角にある当地で保全作業をしていると、「冬芽」や「葉痕（動物の顔に見える模様）」に気づきます。円形や円錐形をした部分は「冬芽」で、花や葉になるものが小さく畳まれて春を待っています。「葉痕」は、葉が落ちたあと。目や口に見えるところは、葉に養分を送っていた管の断面（維管束）です。



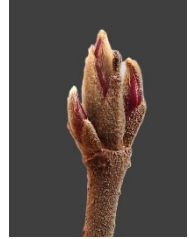
ネジキ（三大美芽）



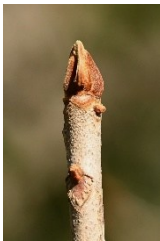
ウグイスカグラ



ガマズミ



コハノガマズミ



ヤマウルシ



アオハダ



ムラサキシキブ



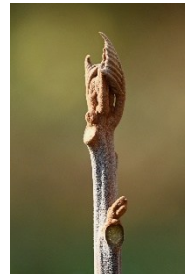
オトコヨウゾメ



ミズキ（赤ペン）



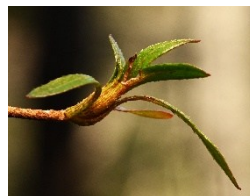
リョウブ（陣笠）



アカメガシワ



ヤマコウバシ



ヤマツツジ  
（半落葉低木）

## 絶滅危惧種

「埼玉県レッドデータブック植物編 2024」による分類は下記のとおりです。

- (1) 絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種
  - ① 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
  - ② 絶滅危惧ⅠB類 (EN) ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種
- (2) 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 絶滅の危険が増大している種
- (3) 準絶滅危惧 (NT) 現時点では絶滅危険度は小さいが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

「トラスト2号地」では、“絶滅危惧種”を観察することができるんだ。特にサイハイランは、たくさん咲いているよ。たいせつに見守ってね！

- (1)②：コクラン、ホトトギス
- (2)：キンラン、クチナシグサ、ヤマホトトギス
- (3)：カンアオイ、ギンラン、サイハイラン、ササバギンラン、シュンラン、コバノイシカグマ (シダ)



## 外来種

「外来種」とは、「人間の活動によって本来の分布以外の地域に導入（移動）された生物種」（環境省）のことを指します。

当地は住宅地に隣接しているにも関わらず、「外来種」の流入は、種数、個体数ともに決して目立つ程のものではありませんでした。

ところが、ここ数年、拡大・増加傾向にあるように見受けられます。

その最大の原因は、狭山丘陵に限らず全国の里山を席卷している「ナラ枯れ」に伴う伐採です。大径木の伐採により明るく開けた空き地ができ、そこに「外来種」を含む草本類の種子が活発に移入、発芽し始めたものと思われます。

当地での代表的な「外来種」は、下記のとおりです。

アメリカヌホオズキ、アメリカスミレサイシン、コセンダングサ、セイヨウタンポポ、セリバヒエンソウ、ダンドボロギク、ハルジオン、ベニバナポロギク、ミチタネツケバナ、ヨウシュヤマゴボウ

今後、これら「外来種」の動向を注視しながら、駆除を含む対策を講じる必要があると考えています。



セリバヒエンソウ



ベニバナ  
ポロギク



ヨウシュ  
ヤマゴボウ  
(実)

# 植物リスト

トラスト2号地に生育している植物の五十音順一覧表です。

「備考」欄の記載は、下記のとおりです。

外来…外来種、植栽…栽培種・園芸種、逸出…栽培種の野生化

## 【草本】 ※シダは次頁

種名	備考	頁
アオオニタビラコ		
アオミス		
アカオニタビラコ		
アキノタムラソウ		20
アキノノゲシ		
アシボソ		
アマチャヅル		21
アメリカイヌホオズキ	外来	
アメリカスミレサイシン	外来	
イグサ(イ)		
イチヤクソウ		16
イヌガラシ		
イヌタデ		27
イノコヅチ(ヒカゲイノコヅチ)		
イモカタハミ	外来	
ウシハコベ		
ウバユリ		21
エノキグサ		
エノコログサ		
オオイチゴツナギ		
オオバギボウシ		21
オオバコ		
オオバジャノヒゲ		17
オカトラノオ		16
オケラ		
オシロイバナ	外来	
オッタチカタハミ	外来	
オニドコロ		20
オニノゲシ	外来	
オモト	逸出	
オヤブシラミ		12
カキドオシ		
カタハミ		
カナムグラ		
カモジグサ		
カラスウリ		21
カンアオイ		33
ガンクビソウ		24
カントウタンポポ		
キッコウハグマ		
キツネアザミ		
キツネノボタン		12
キツネノマゴ		25
キツリフネ		28
キラソソウ		7
キンミスヒキ		26
キンラン		11
ギンラン		11
クチナシグサ		
クワクサ		
ケチヂミザサ		
ゲンノショウコ		27
コクラ		
コシュスグ		
コシロノセンダングサ	外来	
コスミレ		6

種名	備考	頁
コセンダングサ	外来	
コチヂミザサ		
コナスビ		
コバギボウシ		
コハコベ	外来	
サイハイラン		11
ササカヤ		
ササクサ		
ササバギンラン		11
サザガクビソウ		24
ジャノヒゲ		17
シュンラン		6
シラヤマギク		29
シロイトスグ		
シロヨメナ		29
シンミスヒキ		
ススキ		
スズメウリ		25
スズメノヒエ		
セイヨウタンポポ	外来	
セキショウ		
セリ		
セリバヒエンソウ	外来	
セントウソウ		
ダイコンソウ		23
タチツボスミレ		6
タネツケバナ		
ダントポロギク	外来	
チチコグサ		
チチコグサモドキ	外来	
ツボスミレ(ニョイスミレ)		8
ツユクサ		
ツリフネソウ		28
トウバナ		
トキワツユクサ	外来	
トキワハゼ		
ドクダミ		
トボシガラ		
ナガイモ	外来	
ナガバジャノヒゲ		17
ナガバハエドクソウ		
ナキリスグ		
ナルコスグ		
ニガナ		12
ヌカキビ		
ヌスビトハギ		22
ネコハギ		
ノガリヤス		
ノコンギク		
ノササゲ		
ノジスミレ		
ノダケ		29
ノビル		
ノブキ		29
ハキダメギク	外来	
ハシカグサ		

種名	備考	頁
ハナタデ		27
ハルジオン	外来	
ヒカゲスグ		
ヒガンバナ		
ヒゴクサ		
ヒナタイノコヅチ		
ヒメカンズグ		7
ヒメキンミスヒキ		26
ヒメチドメ		
ヒメヒオウギズイセン	外来	
ヒヨドリジョウゴ		24
ヒヨドリバナ		24
フタリシスカ		12
ハクソカスラ		
ハニバナポロギク	外来	
ハビイチゴ		8
ホトトギス		28
ボントクタデ		
マスキサ		
マルバスミレ		6
ミスタマソウ		22
ミスヒキ		25
ミゾイチゴツナギ		
ミノソバ		28
ミチタネツケバナ	外来	
ミツバ		
ミドリハコベ		
ミヤマシラスグ		
ムラサキカタハミ	外来	
ムラサキクマン		9
ムラサキニガナ		16
メアオスグ		
メナモミ		
メヒシバ		
メリケンカルカヤ	外来	
モエギスグ		
ヤエムグラ		
ヤハスエンドウ(カラスノエンドウ)		8
ヤブカラシ		
ヤブスグ		
ヤブタバコ		25
ヤブタバコ		
ヤブニンジン		9
ヤブハビイチゴ		8
ヤブマメ		
ヤブミョウガ		22
ヤブラン		23
ヤマジノホトトギス		26
ヤマノイモ		20
ヤマホトトギス		26
ヤマミゾイチゴツナギ		
ヤマユリ		22
ヤウラスグ		
ヨウシュヤマゴボウ	外来	
ヨシ		

なお、「備考」欄の記載は、「改訂新版 図説 植物検索ハンドブック【埼玉 2998 種類】」を参考としています。

「頁」欄は、「植物紹介ページ」に項目を設けて説明した植物（参考写真掲載植物を含む）の掲載頁を記載しています。実と冬芽の写真は 31・32・34 ページをご覧ください。

## 【シダ】

種 名	備考	頁
アイアスカイノデ		
イヌワラビ		
イノデ		
オオハナワラビ	33	
オオハノイノモトソウ		
オクマワラビ		
カニクサ		
コバノイシカグマ		
シゲシダ		
ゼンマイ		
トラノオシダ		
ナンゴクナライシダ		
ノキシノブ		
ハシゴシダ		
ハリガネワラビ		
フモトシダ		
フユノハナワラビ	33	
ベニシダ		
ハビノネゴサ		
ホソバナライシダ		
ミサキカグマ		
ミドリヒメワラビ		
ヤマイタチシダ		
ヤマヤブソテツ		
リョウメンシダ		

## 【木本】

種 名	備考	頁
アオキ		
アオダモ (コバノトネリコ)		
アオツラフジ		
アオハダ	14	
アカシデ		
アカメガシワ		
アケビ		
アズマネザサ		
アセビ		
アラカシ		
イヌザクラ	13	
イヌシデ		
イヌツゲ		
イヌブナ		
イボタノキ		
イロハモミジ		
ウグイスカグラ	7	
ウツギ		
ウメモドキ		
ウミズサクラ	13	
エゴノキ	13	
エノキ		
オカウコギ		
オトコヨウソメ	9	
カクレミノ	植栽	
カスミザクラ		
ガマズミ	15	
ガマツカ		

種 名	備考	頁
カラタチバナ	逸出	19
キウイフルーツ	外来	
キツタ		30
キリ	植栽	
キンモクセイ	植栽	
クサイチゴ		8
クサギ		23
クスノキ	植栽	
クスギ		
クマシデ		
クリ		
ケヤキ		
ケヤマハンノキ		
コアジサイ	18	
コウヤボウキ	30	
コゴメウツギ	9	
コナラ		
コバノガマズミ	9	
コブシ	7	
コボタンツル		
コマユミ		
ゴンスイ	15	
サカキ		
サネカズラ	23	
サルトリイバラ		
サワフタギ		
サワラ	植栽	
サンショウ		
シュロ	逸出	
シラカシ		
シロダモ		
シロミノマンリョウ		
スイカズラ		
スギ	植栽	
スダジイ		
センニンソウ	30	
センリョウ	植栽	
タブノキ		
タラノキ		
タラヨウ	植栽	
チャノキ	逸出	30
ツクバネウツギ	13	
ツタ (ナツツタ)		
ツリバナ	14	
ツルウメモドキ		
ツルグミ		
ツルマサキ		
テイカカズラ	18	
トウネズミモチ	外来	
ナガバノコウヤボウキ		
ナツグミ		
ナンテン	植栽	
ニシキギ	14	
ニワウルシ (シンジュ)	外来	
ニフトコ	10	
ヌルデ		

種 名	備考	頁
ネジキ		15
ネズミモチ		
ネムノキ		
ノイバラ		
ノリウツギ		
ハクウンボク	植栽	
ハナイカダ		
ヒイラギ	植栽	
ヒイラギナンテン	外来	
ヒイラギモクセイ	植栽	
ヒサカキ		
ヒノキ	植栽	
ヒメコウソ		
ビワ	植栽	
フジ		
ホオノキ		
マグワ	逸出	
マユミ		
マルバアオダモ		
マルバウツギ		15
マンリョウ	逸出	19
ミスギ		13
ミツデカエデ		10
ミツバアケビ		
ミヤマガマズミ		
ムクノキ		
ムベ	植栽	
ムラサキシキブ		18
モウソウチク	外来	
モチノキ	植栽	
モッコク	植栽	
モミ		
ヤツデ	植栽	33
ヤブコウジ		19
ヤブデマリ		14
ヤブニッケイ	植栽	
ヤブムラサキ		18
ヤマウルシ		
ヤマコウバシ		
ヤマザクラ		10
ヤマツツジ		10
ヤマハギ		
ユズリハ	植栽	
リョウブ		19
ロウバイ (マンゲツロウバイ)	植栽	

希少な植物も  
生育しているよ。  
未永くこの環境を  
守ってきたいね！



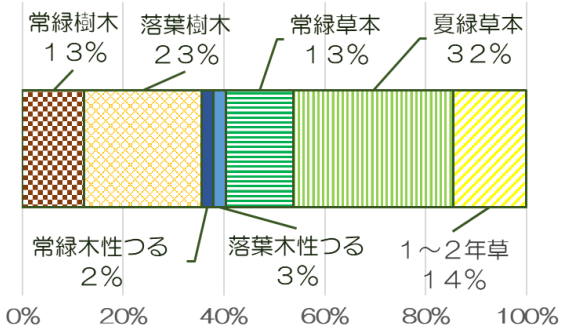
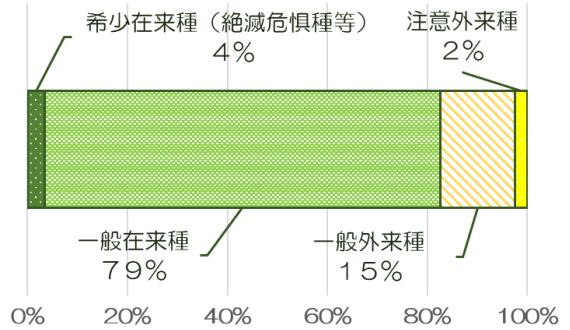
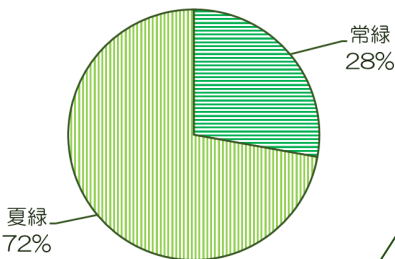
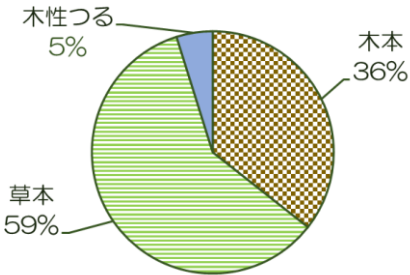
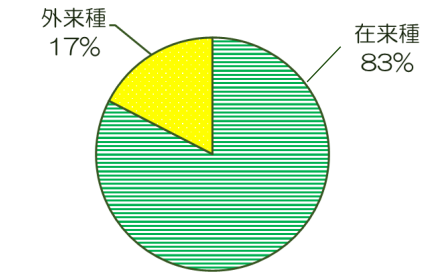
# 自然環境の状況

トラスト2号地において、2023年3月から2025年5月にかけて植物調査を実施したところ、321種（草本167種、シダ25種、木本129種）の植物を確認することができました。

この調査結果に基づき、2号地の自然環境を整理してみました。

なお、下記は植物の種の数による結果であり、それぞれの植物が覆っている面積によるものではありません。

また、「外来種」には、P36-37「植物リスト」の「外来」の他、「植栽」、「逸出」も含まれます。



全体として在来種が多いものの、散歩路沿いでは、外来種の増加が見受けられます。今後の状況を見守りながら、外来種の適切な駆除、希少在来種（絶滅危惧種等）を中心とした在来種の保護に取り組み、残された自然を末永く守っていきたいと思っています。

## 「トラスト2号地」で四季折々の自然を楽しみながら ボランティア活動を始めませんか!?

- ◆定例活動日◆ 毎月 第1・3土曜日 9~11時 (※変更月あり)  
都合がつく日のみの参加で 大丈夫です!
- ◆活動内容◆ 下草刈り、樹木の除伐、植物名表示の設置 等  
何をすればよいかは 周りのスタッフが説明します。  
各自ができることを行えばOK! 道具もあるので手ぶらで大丈夫です!
- ◆主な行事◆ 自然観察会、茶摘み会、タケノコ掘り 等  
自然に親しむイベントも盛り沢山! 楽しい仲間もできますよ!

YouTubeに「トラスト2号地」や 保全活動の様子をアップして  
います。右のQRコードから ご覧ください。



「トラスト2号地」での保全活動に興味がある方は  
「さいたま緑のトラスト協会 ☎ 048-824-3661」まで  
ご連絡ください! お電話お待ちしております!



## さいたま緑のトラスト運動への支援 「キモチと。」

「トラスト2号地」の保全活動は、「さいたま緑のトラスト運動」の一環として行われており、活動の原資は県民や企業・団体等の皆様からの寄附金「さいたま緑のトラスト基金」です。

「キモチと。」は、ブックオフコーポレーション株式会社が行っている寄附の仕組みで、不要になった書籍、CD、DVD、ゲーム等により、「さいたま緑のトラスト基金」へ簡単にご寄附いただけます。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

皆様の温かなご支援を  
お待ちしております!

埼玉 キモチと。

で検索!



埼玉県マスコット  
コバトン&さいたまっち



# トラスト2号地 案内図



トラスト2号地は  
ここです！



\*トラスト2号地に  
駐車場はありません

\*西武狭山線  
西武球場前駅から  
徒歩約15分  
地図の  
.....が  
駅からの  
ルートです



道路標識  
「狭山丘陵  
いきものふれあいの里  
虫たちの森」

緑のトラスト2号地へ  
遊びに来てね！  
「トラスト2号地」は  
「トトロの森1号地」に  
隣接しているよ  
「トトロの森1号地」への  
道標に沿って来てね！

緑のトラスト2号地



で検索！

公益財団法人さいたま緑のトラスト協会  
☎ 048-824-3661

トラスト2号地に住む  
ニホンアカガエルの  
“トラびん”です

